

魅力発信！えひめ農業

令和7年2月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、2月中に各普及拠点から報告のあったものを取りまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

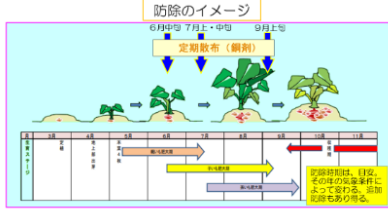
目次	1
2月のトピックス5選	3
さといもセミナーの開催	3
『今治特産ナシをニホンザルから守る研修会』の開催	3
さといも「媛かぐや」の県外販路創出に向け大阪で販売促進	4
「媛小春」の認知度アップに向けてPR活動を実施	4
雪害後の樹勢回復等について指導	5
えひめ農業	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
さといも乾腐病対策に緑肥の栽培を推進	6
青年農業者の鳥獣害対策スキルアップを支援	6
集落農業法人の営農計画改善に向けて	7
第3回市民向け野菜栽培講習会を開催	7
令和7年産裸麦栽培の後期管理の徹底	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
生産者と消費者が交流 地産地消を推進	8
■東予地方局 産地戦略推進室	9
今年度最後のいちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト勉強会を開催	9
■今治支局 地域農業育成室	9
今治産きゅうり退緑黄化病対策講習の実施	9
イノシシの水路侵入対策技術を習得	10
さといも優良種苗の新たな増殖法「親芋直接採取法」の実証を開始	10
農に風をおこす交流研修会を開催	11
農業の魅力を伝える就農啓発講座を開催	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	12
わな猟スキルアップ（第2回）現地研修会を開催	12
新規就農者の経営状況の聞き取り調査の実施	12
かんきつ生産者を対象に農作業安全講習会を開催	13
■今治支局 産地戦略推進室	13
媛かぐや種芋定植栽培講習会を開催	13
■中予地方局 地域農業育成室	14
若手いちご生産者が農業DX技術を研修	14
ユウカリの株枯れ症状対策マニュアルを作成	14
認定農業者の経営改善をサポート	15
鳥獣害防止対策について先進地研修	15
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	16
伊予地区農業フォーラムでキウイフルーツの受粉新技術を紹介	16

■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	16
地域資源を活用！農業の活性化方策を学ぶ	16
道の駅出荷農家に有機農業技術を指導	17
■中予地方局 産地戦略推進室	17
さくらひめ産地強化事業第2回検討会を開催	17
■南予地方局 地域農業育成室	18
第4回ニューファーマー講座の開催	18
女性農業者等研修で交流	18
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	19
ももの急性枯死症対策実証試験を開始	19
花粉用キウイフルーツのせん定研修および互評会の開催	19
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	20
南宇和高校農業科2年生を対象に研修会を開催	20
水稻新品種「にじのきらめき」による愛南町水田農業の活性化	20
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
八西地区青年農業者と川之石高校生との交流会を開催	21
首都圏の小学生にかんきつ出前授業実施	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	22
農福連携の推進に向けて交流セミナーを開催	22
地域の担い手の資質向上を目指して研修会を開催	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	23
連年安定生産に向けたかんきつせん定講習会を実施	23
■八幡浜支局 産地戦略推進室	23
国内最大級の食品展示会でフィンガーライムの販路拡大を支援	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	24
「紅プリンセス」の栽培実態調査および栽培技術実証の結果を共有	24

2月のトピックス5選

標 題	さとともセミナーの開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年2月1日	場所	土居町文化会館	
指導対象	さととも栽培農家（225人）	連携機関	農林水産研究所、JA うま、四国中央市、青果会社、日本農薬（株）	
普及指導内容	○令和6年の夏秋期の高温や集中的な降雨等により軟腐病が多発したことを受け、生産者に向けて正しく病気を理解し、効果的な防除対策の推進につなげるためのセミナーを開催した。 ○セミナーでは、農林水産研究所から軟腐病の発生と防除対策について説明するとともに、農薬メーカーから銅剤散布の効果等について事例報告を行った。 ○当班からは、管内における軟腐病発生実態調査の結果を報告するとともに、次年産の栽培における対策のポイントを指導した。			
結果と今後	○参加者からは、軟腐病の発生メカニズムや銅剤散布の効果等に関する質問が多く出され、関心の高さと封じ込めに向けた意気込みが感じられた。 ○今後、JA うま、農林水産研究所等と連携し、薬剤散布の効果や地温抑制に向けたマルチ栽培実証等を行い、さとともの安定生産を図っていく予定である。			





サトイモは、栽培期間が長いので軟腐病に対しては定期的な予防散布で対応。
☆薬剤防除は、「2ポルドー」などの予防効果がある無機銅剤を予防散布を重点として高温・降雨期に3回程度の定期防除を実施。

基本的な耕作的防除（排水対策では）
☆高温・多湿は発生を助長するので、水はけの良い畑は高畝にする（マルチは泥はねを防止できる）、排水路を確保して降雨後に水が溜まらないよう努める。

左：セミナー開催

右：軟腐病防除イメージ

標 題	『今治特産ナシをニホンザルから守る研修会』の開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年2月25日	場所	今治市古谷（清水寺集会所、ナシ園）	
指導対象	古谷地域ナシ生産者、市内集落代表者、鳥獣管理専門員他（30人）	連携機関	今治市、JA おちいまばり 農業共済組合、獺友会今治支部	
普及指導内容	○今治市古谷の特産であるナシの産地では、ニホンザルによる壊滅的な被害が発生しており、関係者で効果的な対策を共有するための研修会を開催した。 ○当室は、11台のセンサーカメラで撮影した映像を基に、サルの習性や侵入経路等を紹介。現地では専門家と被害対策の問題点等を検証した。			
結果と今後	○研修会では、サルが防風ネット用に設置したポールから飛び移り侵入している実態や、3m以上跳躍することを紹介した。 ○また、対策のモデル集落となっている高大寺、奈良の木集落からは、餌付けの餌を工夫し、地獄檻等で45頭（R5年7頭）を捕獲した実績が報告された。 ○現地検証の結果、複合柵補強等更なる追加対策が必要であることが浮き彫りとなったことから、今後、地域が一体となった被害防止対策の推進等を進める。			



映像による侵入経路等の説明



研修会配布資料



対策モデル園での現地検証

標 題	さといも「媛かぐや」の県外販路創出に向け大阪で販売促進		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年2月8日	場所	JR 大阪駅	
指導対象	—	連携機関	JA 全農、県大阪事務所	
普及指導内容	○さといも「媛かぐや」の県外販路創出に向け、県内外に青果販売業を展開する株式会社ウイン企画（本社：大阪府）と連携し、大阪府で開催されたイベント「みのりみのるマルシェ 愛媛の実り」において、商品 PR と販促活動を実施した。 ○イベントでは、「媛かぐや」の特性や食べ方などを説明し、消費者への認知度向上を図った。同時に県産品のかんきつや、さといも「伊予美人」も販売した。			
結果と今後	○訪れた人の多くがかんきつに関心を示す中、「媛かぐや」の説明では、調理方法に関する質問が多く、関西で流通するえびいもやたけのこいもを引き合いに出すと興味を持ち、購入する消費者が多かった。 ○関西では親芋を食べる習慣があり、「媛かぐや」は受け入れられ易く、今後も関係機関と連携し県内外の販路開拓に努める。			

【みのりみのるマルシェ】
JA 全農と JR 西日本が、2015 年度に締結した「地域振興支援に関する連携協定書」に基づき開催するマルシェ。月 1～2 回、各県の農産物を PR・販売する。



みのりみのるマルシェ



「媛かぐや」の魅力を PR

標 題	「媛小春」の認知度アップに向けて PR 活動を実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 2 月 1 日、16 日	場所	大街道商店街、きさいや広場	
指導対象	－	連携機関	道の駅みま、JA えひめ南	
普及指導内容	○「媛小春」の特長や魅力を伝える活動を通して認知度の向上を図るため、県内イベント（松山市：愛ある食の市、宇和島市：宇和島産業まつり）にて PR 活動を行った。 ○販売の際に活用した販促資材（ポスター・リーフレット）は、デザインを一新。また、試食を用意して“黄色い果皮と味の意外性”や“果汁の多さ”“爽やかな甘さ”など、食味の良さ等の特長を PR した。			
結果と今後	○初めて食べた多くの方から「美味しい」との高評価を受けた。また、「(昨年度実施した) 試食を通じて知り、購入のため来場した」という県外消費者も見受けられ、試食が購買につながることを実感した。 ○今年は生産量が少なく高単価になっているものの、来年以降、苗木の成木化等により生産量が増える見込みであることから、引き続き認知度向上対策を実施していく。			
  左：当室職員が消費者に魅力を直接 PR 右：資材には産地情報、旬の時期や果実の特長を記載				

標 題		雪害後の樹勢回復等について指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日		令和 7 年 2 月 14 日		場所	八幡浜市ほ場
指導対象		晩柑施設部会員（20 人）		連携機関	JA にしうわ
普及指導内容		○ 2 月 4 日から 6 日にかけての降雪により、管内では積雪によるハウスの倒壊や枝折れ等甚大な被害が発生した。 ○ これを受け、せん定講習会にあわせて、被害を受けた生産者に対し、枝折れ樹の欠損部の切り返しによる新梢の発生促進や、切り口への癒合促進剤の塗布、枝の接合方法等、樹体の回復について指導した。			
結果と今後		○ 今後も寒波等による落葉や枝の枯れ込み等の樹勢の低下が予想されることから、樹勢に応じたせん定や液肥散布による樹勢回復方法等について指導する。 ○ ハウスが倒壊した園地では、ハウス撤去後に樹体の回復や改植を進めるため、継続して指導する。 ○ また、生産者が営農を継続できるよう、指導・支援を行っていく。			
				左：積雪により倒壊したハウス 右：倒壊に伴う枝折れ	

えひめ農業

標 題	さととも乾腐病対策に緑肥の栽培を推進		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 2 月 5 日		場所	JA えひめ未来新居浜経済センター
指導対象	JA えひめ未来新居浜里芋部会 (40 人)		連携 機関	JA えひめ未来、愛媛県農林水産研究所
普及指導 内容	○当室では、近年発生が拡大している乾腐病の対策として、緑肥「辛神」を活用した発病抑制効果を検証するため、昨年 10 月から試験栽培に取り組んでいる。 ○2 月時点の生育状況はおおむね順調であるが、水はけの悪いほ場や、施肥量が少ないほ場で生育不良が見られており、ほ場条件が生育に影響を及ぼしていることを部会員に報告した。 ○合わせて、農林水産研究所から、令和 6 年産の気象状況と作柄、令和 7 年産の栽培管理のポイントについて説明した。			
結果と今後	○「辛神」のすき込み適期は 4 月で、すき込んだほ場で水稻を栽培し、次作にさとともを作付けすることとなるため、発病抑制効果が顕れるのは翌年となる。 ○今後は、植物体をより細かく裁断するなど効果の高いすき込み方を検証するなど、緑肥による乾腐病対策を確立することで、さととも産地拡大を支援していく。			



緑肥「辛神」の生育状況等の説明



「辛神」のすき込み適期（雪印種苗提供）

標 題	青年農業者の鳥獣害対策スキルアップを支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年1月25日、2月17日	場所	東予地方局、今治市大三島	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会会員 (7人)	連携 機関	農産園芸課、(株)野生鳥獣対策連携センター、しまなみイノシシ活用隊	
普及指導 内容	○鳥獣害対策について、捕獲後の止め刺しや解体の技術向上に意識が高い青年農業者を対象に、室内研修及び先進地視察の実施を支援した。 ○(株)野生鳥獣対策連携センターの阿部氏を講師に迎えた研修会では、安全で効果的な保定・止め刺しについて学ぶとともに、効果的なわなの設置や餌付けを再確認した。 ○さらに、今治市大三島町の「しまなみイノシシ活用隊」を訪問し、解体作業を見学するとともに、鳥獣害対策について情報交換を行った。			
結果と 今後	○参加者は、安全で効果的な止め刺しの方法や解体のコツを学ぶことで、技術の向上が図られ、今後の鳥獣害対策活動への意欲を高めていた。 ○当室では、今後も鳥獣害対策に関心を持ち、新規に狩猟免許の取得意向がある農業者等を対象に、技術向上に向けた研修会の開催等の取組を支援する。			



室内研修で保定・止め刺しを学ぶ



先進地視察でイノシシの解体を見学

標 題	集落農業法人の営農計画改善に向けて		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年2月13日	場所	西予市野村町、鬼北町	
指導対象	農事組合法人川根集落営農組合	連携機関	西予農業指導班、鬼北農業指導班	
普及指導内容	○同法人は、令和6年度から移住希望者を後継者候補として受け入れているが、農業経営の維持・発展を目指し、水稻減農薬栽培に加え、新たにゆず栽培の導入を検討するため、県内先進事例研修の実施について支援した。 ○農薬、化学肥料不使用栽培を実践する西予市野村町の阿下特別栽培米部会を訪問し、有機肥料の使い方や紙マルチを利用した雑草抑制方法について学んだ。 ○鬼北農業指導班では、有機農業によるゆず栽培の注意点や収穫と販売状況について講義を受け、実証ほ場のゆずや鳥獣対策用の防護柵を見学した。			
結果と今後	○同法人は、水稻減農薬栽培での紙マルチ栽培に対し関心を深めるとともに、ゆず栽培の基本的な知識や鳥獣対策を学ぶことができた。 ○当室では、紙マルチ栽培の関連機械や栽培方法の情報収集と、ゆず栽培の本格的な導入に向け協議を進める。 ○また、同法人が後継者候補として受け入れた移住希望者について、将来のリーダーとなるよう、早期の経営参画や資質向上に向けた支援を行う。			



阿下特別栽培米部会での研修



ゆず実証ほ場で防護柵を見学

標 題	第3回市民向け野菜栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年2月20日	場所	JA えひめ未来 新居浜経済センター	
指導対象	産直市出荷者、野菜栽培に興味がある市内在住者（37人）	連携機関	JA えひめ未来、新居浜市	
普及指導内容	○産直市「四季菜広場」のリニューアルに向け、販売品目及び出荷量の増加が必要なことから、新規出荷者確保と増収技術の習得を目的に開催。 ○3回目となる今回は、これから準備が始まる春夏野菜4品目の栽培管理・病虫害防除などの技術面に加え、収益試算方法についても例を挙げながら解説した。 ○JAからは産直市への出荷方法、市からは就農関係制度などを説明した。			
結果と今後	○参加者からは「今後も講習会を通じて知識を身につけたい」「自分で収益試算をしてみようと思った」という声があり、栽培・出荷に対する意欲がうかがえた。 ○講習会後のアンケートでは、参加者の約4分の1が「今後新たに出荷したい」と回答。 ○当室では、新規栽培候補者をターゲットに個別巡回を実施するとともに、来年度も関係機関と連携した講習会を定期開催し、新規出荷者の確実な確保・育成を目指す。			
 野菜の栽培方法を学ぶ参加者  出荷方法の説明を受ける参加者				

標 題	令和 7 年産裸麦栽培の後期管理の徹底		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 2 月 26 日	場所	JA えひめ未来西条めぐりセンター	
指導対象	JA えひめ未来米麦部会員（ 7 人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	○令和 7 年産の裸麦は、水稻の収穫遅れや 11 月上旬の多雨の影響で、11 月中の播種はほ場の 4 割程度にとどまり、多くのほ場で 12 月の播種となった。 ○11 月下旬以降は気温が低く推移し、12 月播種のほ場では発芽が不揃いで苗立数も少ないことから、全体的に穂数が少なくなることが懸念される。 ○このため、当室では、JA えひめ未来裸麦後期管理研修会において、排水対策、穂肥、赤カビ病及び雑草対策等の適期実施について指導した。			
結果と今後	○播種時期の遅れと低気温から苗立数が少ないほ場が多いほか、カモ類の食害を受けたほ場も多かった。また適切な追肥及び穂肥施用の重要性が再認識された。 ○当室では引き続き、春先の降雨に対する排水対策や追肥、穂肥の適切な施用により、充実した穂が確保できるように栽培管理を指導していく。			

令和7年度 ハルヒメボシ後期栽培管理

えひめ未来農業協同組合
東予地方局農業振興課

1 気象と麦の生育概況

11 月は平年より平均気温が 1.2℃高く、12 月、1 月は平年並み。降水量は 11 月は平年の 2 倍であったが、12 月から 1 月は平年並み、日照時間は 11 月が多く、12 月から 1 月にかければ平年並みとなった。
播種が遅れ、12 月に入ってから播種したほ場も多い。11 月に播種したほ場の発芽揃いは平年並みで出芽数も十分な状況であったが、12 月に播種したほ場の発芽揃い悪く、出芽数も少ない。12～1 月の低温により生育が遅く、茎数も少ない。

気温（アメダス 西条）

本年作は、11 月下旬以降、平年並み、12 月下旬、1 月上旬、2 月が平年より低い

本年
前年
平年

降水量（アメダス 西条）

本年作は、11 月上旬に多雨であったが、その後は少雨

前年作は、度々多雨の時期があった

本年
前年
平年

高松地方気象台発表（1 月 21 日付）の 3 か月予報では、四国地方の向こう 3 か月の平均気温は平年並みか高く、降水量は平年並みか少ない予想です。
穂数が少なくなると予想され、充実した穂（粒）を確保するために、追肥及び排水対策、赤かび病対策、基肥・穂肥体系の圃場では穂肥の適期施用が重要です。

降水量の推移と今後の気象

標 題	生産者と消費者が交流 地産地消を推進		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和 7 年 2 月 8 日	場所	四国中央市 金生公民館	
指導対象	生活研究協議会員、青年農業者、認定農業者等（117 人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	○「第 50 回四国中央農山漁村ふるさとづくり大会」及び「第 20 回四国中央市地産地消・食生活推進フォーラム」の開催を支援した。 ○大会では、農林水産省職員の松本純子氏が「デジタル社会における地産地消の進め方」と題して講演を行い、SNS 等を活用して産地の魅力を発信することの有効性を説いた。 ○青年農業者が育雛と耕種農業の両立を目指した取組み、市立北小学校 3 年生が青年農業者とさといも収穫体験等を通して得た食の大切さなどについて発表した。 ○生活研究協議会員は、地産地消の推進に向け地元の特産品をふんだんに用いた郷土料理などを参加者に振舞った。			
結果と今後	○大会を通じ、生産者と消費者の相互理解が深まり、更なる地産地消や食育の推進に努める機運が醸成された。また、参加者は郷土料理の試食に舌鼓を打ち、特産品（さといも、山の芋）を使った料理実習に参加したいという声も聴かれた。 ○当班では、参加者の意向等を踏まえ、今後も組織活動や地産地消・食育活動の推進を積極的に支援する。			





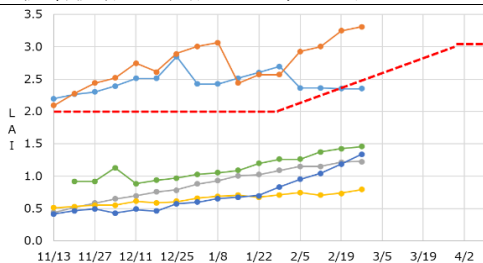
左：松本氏による講演

右：地産地消料理の試食

標 題	今年度最後のいちご栽培環境モニタリングデータ活用実証プロジェクト勉強会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 2 月 28 日	場所	西条市石根	
指導対象	いちご生産者（6 人）	連携機関	JA 周桑、JA えひめ未来	
普及指導内容	○実証生産者等を対象に、データ等を活用した環境制御技術の現地勉強会は今回が 7 回目（今年度最終回）で、日射量が増加する春以降の温度管理や LAI（葉面積指数）を意識した栽培管理の最適化について指導した。 ○当室から、栄養成長と生殖成長のバランスを調節するために、ハウス内の日平均気温を 15.5℃以下に抑えることや、呼吸による消耗を最小限に抑えるために、LAI を 3.0 に維持する摘葉管理手法等を説明した。			
結果と今後	○生産者からは、「この 1 年間で明らかに栽培技術が向上した実感がある。」「年齢の近い仲間と一緒に切磋琢磨できたことはかけがえのない時間だった。」「モニタリングデータなしでは、栽培管理に不安を感じる。」「近隣の生産者にも環境制御技術の導入を勧めていきたい。」との声が聞かれた。 ○当室は、次年度から局予算事業「いちご新技術導入促進事業」により、環境制御技術を含むオランダの最先端栽培技術の本格的な導入を図ることとしている。			



意見が飛び交う勉強会



LAI に基づく管理（赤破線が基準）

標 題	今治産きゅうり退緑黄化病対策講習の実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年2月15日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部	
指導対象	JA おちいまばりきゅうり部会 (90人)	連携 機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導 内容	○管内の主幹品目であるきゅうりは、退緑黄化病が深刻な問題となっているため、部会総会に合わせて退緑黄化病対策講習を行った。 ○当室から、2年間農林水産研究所と連携して退緑黄化病が発生している3ほ場を調査した結果を報告。 ○捕獲虫は全てタバココナジラミであったことや各農薬の感受試験結果等について説明した。			
結果と 今後	○参加者に対し、退緑黄化病のウイルスを媒介するタバココナジラミの防除に効果の高い農薬やローテーション防除の必要性を周知することができた。 ○また、産地づくりとして、新たな生産者を確保するため、新規栽培希望者説明会を開催（3月15日）することとしている。			



退緑黄化病対策講習



薬剤名	50%	平均気温	平均湿度
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4	○	○
アクトラン・アクトラン	4.4		

標 題	イノシシの水路侵入対策技術を習得		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令 7 年 2 月 21 日	場所	今治市菊間町河之内	
指導対象	(有) 芽野歌（3 人） えひめ地域鳥獣管理専門員（4 人）	連携 機関	(株) 野生鳥獣対策連携センター 今治市、JA おちいまばり	
普及指導 内容	○今治地域で活動する「えひめ地域鳥獣管理専門員」の資質向上を図るため、管内で 設置事例のないイノシシの水路侵入対策用電気柵の設置実習をおこなった。 ○これは、(有) 芽野歌の園地の掘り起こし被害を受け、センサーカメラで水路から侵 入するイノシシを確認したことから新たな対策として当室が提案したもの。			
結果と 今後	○今後もセンサーカメラを活用して侵入状況を確認するとともに、設置効果を検証し ていく。 ○今治地域では、鳥獣管理専門員認定者が 8 人活動しており、特に中晩柑類で増加し ている被害への対策を今後の活動テーマとして取り組んでいくこととした。			



センサーカメラで侵入を確認



水路用電気柵を設置



活動地域の課題を共有

標 題	さといも優良種苗の新たな増殖法「親芋直接採取法」の実証を開始		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年2月18日ほか	場所	今治市大西町、朝倉上	
指導対象	さといも生産農家（2戸）	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	○当室が考案した「親芋直接採取法」の技術確立に向け、親芋を加温加湿しエチレングスを添加する優良種苗の増殖実証を開始した。 ○「親芋直接採取法」は、通常廃棄される親芋から萌芽した腋芽を親芋ごと切断し、15日程の短期間で定植苗を直接採取する新たな技術であり、低コストで罹病のない優良種苗を生産する新たな増殖技術として期待されている。			
結果と今後	○親芋は農林水産研究所から提供された種苗等を使用するほか、親芋の萌芽処理は、自作した萌芽施設や水稻育苗用の加温機を使用し、エチレングスの添加についてはジャガイモの萌芽について知見を有する大手ガスメーカーから技術提供を受けている。 ○今後、3月中旬から実証ほど採取苗の定植を開始することとしており、地方局予算を活用しながら実証を進め、新たな増殖法の技術確立を図っていく。			



自作した親芋萌芽施設



水稻育苗加温機での萌芽処理



萌芽した親芋直接採取苗

標 題	農に風をおこす交流研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年2月13日	場所	今治市民会館	
指導対象	今治・上島地区農業者等（122人）	連携機関	今治地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	○今治・上島地域の農業者が集い、今後の地域農業の活性化を目的として「夢を実現できる農業者へ～持続可能な今治農業のために～」をテーマに開催。 ○地域農業を担う農業研修生や新規就農者、青年農業者、認定農業者が活動事例報告を、県立今治南高校園芸クリエイト科生徒がプロジェクト発表を行った。			
結果と今後	○大三島に移住してきた農業研修生は、経営開始にあたり「研修中に農地の確保と相談できる人脈づくりに取り組んだ」と話し、島の活性化に貢献したいと心境を伝えた。 ○また、ハウス団地の設置に取り組む青年農業者は、仲間と一緒に地域農業の発展に取り組む想いを述べ、今後の農業に活力をもたらす研修会となった。 ○当室では、管内生産者の声に耳を傾けながら、今後も地域農業を支える農業者の育成に努める。			



挨拶する青年農業者協議会長



地域農業者が活動事例を発表



質疑応答の様子

標 題	農業の魅力を伝える就農啓発講座を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年2月3日、18日	場所	今治南高等学校日高農場 しまなみいちご園	
指導対象	県立今治南高等学校1・2年生 (50人)	連携 機関	県立農業大学校、農地・担い手対策室 農事組合法人サポート中寺	
普及指導 内容	○農業への理解促進と就農への意識向上を目的に「えひめ愛顔の農林水産人」が、経験を踏まえた農業の魅力とやりがいを伝える講座を開いた。 ○更に、いちご栽培に興味のある11人が、集落営農組織が運営する観光いちご園を訪問し、栽培状況や取組事例、地域における農業の重要性について指導を受けた。			
結果と 今後	○講座を通じ、生徒からは、「農業の楽しさが理解できた」や「いちごの栽培に興味を持ったので自分も栽培してみたい」などの感想が聞かれた。 ○当講座は毎年開催している。今春は卒業生1人が集落営農組織へ就職することが決まっており、地域の担い手として活躍が期待される。 ○今後も、地域農業の魅力発信などにより、就農への意識を高め、担い手の確保・育成につなげていくことを目的に継続的に開催していく。			



先輩農業者からの提言



いちご栽培について説明



園主がいちご栽培を紹介

標 題	わな猟スキルアップ（第2回）現地研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年2月12日	場所	今治市大三島町宮浦	
指導対象	青年農業者（4人）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	○狩猟技術の向上を目指して、大三島地域の青年農業者を対象とする現地研修会（若手狩猟者の育成プログラム（(県) わな猟スキルアップ実践事業)）を開催した。 ○研修会では、平場の捕獲が難しい場所での捕獲方法を検討。専門家の指導のもと、イノシシの出没や獣道の状況を確認しながら、設置場所に適したくくり罠（種類）の選択と設置、誘導方法等、捕獲技術のポイントを学んだ。 ○また、捕獲の有無を知らせる発信機の活用事例や、くくり罠設置時の地面の調整（穴掘り等）に用いる器具の利用方法など、捕獲活動の効率化についても指導を受けた。			
結果と今後	○受講生は、様々な条件に応じた捕獲方法について積極的に質問するなど、捕獲技術の習得に向けた意識の高さがうかがえた。 ○今後も引き続き、専門家と連携しながら若手狩猟者等の捕獲技術の向上と地域の鳥獣害対策の推進を支援していく。			
 わなの設置を指導  カモフラージュされたわな 				

標 題	新規就農者の経営状況の聞き取り調査の実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年2月4日	場所	上島町役場岩城総合支所、 新規就農者園地（岩城、佐島）	
指導対象	新規就農経営開始資金受給対象者 （5人）	連携 機関	上島町、JA おちいまばり、NPO 法人 岩城農村塾	
普及指導 内容	○経営開始資金受給者に対し、農業経営状況や、園地の管理状況を聞き取る面談を行った。 ○上島町での対象者は5人。直近の経営規模、決算状況、販売状況を確認し、今後の経営計画や課題等について意見交換を行った。			
結果と 今後	○調査対象の新規就農者は、いずれも就農計画の売り上げ目標を達成しており、設備投資や規模拡大に向けた計画など前向きな意見が多く聞かれた（10月新規就農者除く）。 ○上島町ではIターン移住による新規就農が5人中4人と多く、地域内での育成が課題となっているため、当班も引き続き関係者と連携して支援していく。			
 経営状況や計画等の面談  栽培状況確認及び指導・助言				

標 題	かんきつ生産者を対象に農作業安全講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和 7 年 2 月 4 日（火）	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	上島町岩城地区かんきつ生産者等 （17 人）	連携 機関	JA おちいまばり、上島町農林水産課	
普及指導 内容	○かんきつのせん定時期に使用頻度が多くなるウッドチップパーの安全使用講習会を開催した。 ○JA ではリース事業としてウッドチップパーの貸し出しを行っており、大きな人身事故は起きていないものの、無理な作業による故障や機械の転落の事例がある。 ○講師は JA 購買店舗店長が務め、機械の運搬から始業・作業終了までの安全ポイントについて実演を交えて周知した。 ○あわせて、指導班から、縮間伐によるかんきつ園の作業環境の改善対策及び使用者が増加している電動鋏の安全使用について指導した。			
結果と 今後	○かんきつ生産者の高齢化により農作業事故の頻度が高まることから、今後も機会あるごとに園内作業環境の改善や機械の安全使用の周知を行い農作業事故の抑止を図っていく。			



かんきつ園地の作業改善講



電動鋏の安全使用の実演



ウッドチップパーの安全運転講習

標 題	媛かぐや種芋定植栽培講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年2月26日	場所	JA おちいまばり　さいさいきて屋	
指導対象	媛かぐや生産者（4人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○媛かぐやの安定生産に向けた栽培技術向上を図るため、種芋を定植する栽培方法の講習会を実施した。 ○講習会では、種芋重と親芋重の関係性や頂芽除去による複数本収穫の説明に加え、副芽を利用した切り芋利用についても説明した。			
結果と今後	○参加者は、青果用・加工用のそれぞれに求められる出荷規格と、それに応じた種芋の選別や定植方法について理解を深めた。 ○また、現在生産者は場2か所で実施している種芋貯蔵試験の掘り取りは、3月～4月に実施予定。掘り取り後は生産者は場にて定植し、生育調査を引き続き実施する。			





左：調査研究の説明

右：種芋定植ポイントの説明

標 題		若手いちご生産者が農業 DX 技術を研修		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日		令和 7 年 2 月 28 日		場所	西条市壬生川
指導対象		若手いちご生産者（6 人）		連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、東予地方局産地戦略推進室
普及指導内容		○いちご栽培に環境モニタリング機器を設置している若手生産者が、西条市のいちご栽培の先進農家で、最新の高品質安定生産技術を研修した。 ○環境データを活用した栽培技術や高温対策等を踏まえた育苗管理について、意見交換を行った。 ○また、先進農家から東予地域で導入している環境モニタリング機器の種類や導入状況、勉強会の実施概要について説明を受けた。			
結果と今後		○参加した生産者は、「葉が大きく草勢が良好」「着果量が多く、草姿が全然違う」など、自身が栽培しているいちごとの違いに驚いていた。 ○農業 DX により、生育・環境データを活用することで、苗定植後の高温対策や葉面積量の維持が最適化され、安定生産につながることを学んだ。 ○今後も関係機関と連携し、育苗管理の徹底や環境データの活用に努め、儲かるいちご生産者を育成する。			





左：先進農家から指導を受ける若手生産者

右：農業 DX を活用した高設栽培

標 題	ユーカリの株枯れ症状対策マニュアルを作成		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年2月4日	場所	中予地方局	
指導対象	—	連携機関	松山市、東温市、JA（松山市、えひめ中央）、県花き研究指導室	
普及指導内容	○ユーカリ産地の更なる拡大を目指し、地方局予算「観賞用ユーカリ産地拡大事業」（R4～6年度）に係る第2回中予地域ユーカリ生産対策協議会を開催した。 ○3か年の事業成果を報告するとともに、株枯れ症状対策等のマニュアル作成や新たな品種の導入について協議した。			
結果と今後	○マニュアルには、植栽にあたってのほ場選定や排水による株枯れ症状対策などを取りまとめて掲載した。 ○新規導入品種については、地域適応性や市場評価等の観点から3品種を選定し、産地化を目指す。 ○今後は、株枯れ症状に苦慮している生産者や新規栽培希望者等にマニュアルを配布し、排水等の技術指導を徹底する。			
  左：ユーカリの株枯れ症状対策マニュアル 右：有望品種について意見交換				

標 題	認定農業者の経営改善をサポート		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年2月18日、20日	場所	松山市北条、東温市拝志	
指導対象	認定農業者、青年農業者（18人）	連携機関	—	
普及指導内容	○松山地区農業経営者協議会は、農業経営の決算期を迎えるにあたり、税理士を講師として、農業経営改善に係る決算講座を開催した。 ○研修会では、税理士から今年度の税制改正や決算処理における注意点等について説明した後、税理士と普及指導員が、個別に複式簿記による決算処理や経営診断に基づく改善等を指導した。			
結果と今後	○参加者からは、経費の仕訳方法や簿記ソフトによる記帳についての多くの質問があり「経営管理について具体的なアドバイスを頂けてよかった」との意見が寄せられた。 ○今後も、専門家と連携しながら、認定農業者等の管理能力の向上を図り、経営の健全化や改善と目標所得の達成を目指す。			





左：税理士による税制改正の説明

右：経営診断による個別指導

標 題		鳥獣害防止対策について先進地研修		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年2月27日		場所	四国中央市土居町上野、松山市八反地	
指導対象	－		連携機関	松山市、東温市、JA（えひめ中央、松山市）等	
普及指導内容	○関係機関・団体で構成する松山地区農業改良普及事業推進協議会は、鳥獣被害軽減につなげるため、ニホンサルへの対策やジビエ活用について先進地研修を実施した。 ○近年、管内でもサルによる農作物の被害が増加していることから、四国中央市において、地元農家が主体となり地獄檻や箱わなを用いてサルの捕獲に取り組む事例について説明を受けた。 ○また、獣肉加工処理施設の「高縄ジビエ」では、イノシシやシカの加工製造や販売の取組みについて説明を受けるとともに、ソーセージやハンバーグ、コロッケなどのジビエ料理を試食した。				
結果と今後	○サル対策では、地元住民が協力して捕獲することやサルが好む餌を常に与え、警戒心を持たせないことが重要であり、今後の捕獲対策に活かすこととした。 ○ジビエ活用では、食品衛生や豚熱などの感染症対策を適切に講じる必要があることや、施設整備には経費はもとより、安定した捕獲個体の確保など様々な課題をクリアする必要があると認識した。				
 サル捕獲の地獄檻  ジビエ活用について研修  ソーセージ等のジビエ料理					

標 題	伊予地区農業フォーラムでキウイフルーツの 受粉新技術を紹介		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年2月18日	場所	砥部町中央公民館	
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、 農業指導士、伊予農高生等（95人）	連携 機関	伊予地区農業・生活研究フォーラム 実行委員会（伊予地区農業改良普及事 業推進協議会）	
普及指導 内容	○「原点に立ち返り伊予地区農業を見つめ直してみよう」をテーマにフォーラムを開催し、松山市考古館の梅木館長による「原点にかえる～稲作農耕の始まり・道具と文化」と題した基調講演のほか、青年農業者の事例発表や米の試食等を実施した。 ○当指導班からは、キウイフルーツの新しい受粉技術として、静電風圧式受粉機を紹介し、花粉使用量が慣行受粉に比べ1/3に低減できることや、他の受粉方法と同様の肥大・品質を確保できることを報告。			
結果と 今後	○キウイフルーツ栽培農家からは、「花粉量を減らしても品質を維持できる技術を知ることができて良かった」「今後の経営の一助として検討したい」と新しい受粉技術の知識を深めた。 ○米の品種比較では「ひめの凜」「にじのきらめき」「ヒノヒカリ」を参加者が試食した結果、「ひめの凜」が最もおいしい評価となり、米栽培農家からは新たに栽培したいとの声があった。			
  左：キウイフルーツの受粉について紹介 右：静電風圧式受粉機				

標 題	地域資源を活用！農業の活性化方策を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年2月7日	場所	久万高原町産業文化会館	
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、農業指導士、上浮穴高校生等 (116人)	連携機関	久万高原地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	○地域が抱える様々な課題に対し、解決策や振興方策を考える「久万高原農業を考える研究集会」を開催した。 ○傾斜地での農耕システムが世界農業遺産となっている徳島県にし阿波地域で営農する田口真示氏が講演を行い、生産物、景観、食文化等の地域資源の活用と循環型農法による地域農業の活性化方策について紹介した。 ○当指導班からは、令和4年度から実施してきた地方局予算事業「久万高原地域食材伝承事業」の活動成果について報告し、地域食材である「雑穀」の利活用による町内飲食店でのメニュー化や新たな需要に対応するための生産量の確保に向け、参加者に栽培を呼び掛けた。 ○また、上浮穴高校生が「規格外野菜を使った商品開発」と「地大豆・地雑穀の継承と普及」についてのプロジェクト発表を行った。			
結果と今後	○参加者は、研修をとおして立地条件が類似するにし阿波地域の取組みに刺激を受けるとともに、地域資源の見直しや活用による地域の農業振興について意を新たにした。 ○女性農業者からは雑穀栽培の相談があり、来年度栽培に取り組む。			
 久万高原農業を考える研究集会				

標 題	道の駅出荷農家に有機農業技術を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年2月25日、27日	場所	JA松山市久万支所、美川農村環境改善センター	
指導対象	道の駅野菜等出荷農家（42人）	連携機関	久万高原町、JA松山市、道の駅天空の郷さんさん、道の駅みかわ	
普及指導内容	○久万高原地域での有機野菜の産地づくりや道の駅での販売促進を目的に、有機農業講座を開催した。 ○講座では、伊予農産株式会社から野菜生産における有機栽培技術について講義した。 ○また、当指導班からは、夏秋トマトにおける天敵昆虫（タバコカスミカメ）を用いた環境にやさしい防除技術について紹介した。			
結果と今後	○参加者は、たい肥や米ぬか等の有機資材を活用した、化学肥料の節減技術や天敵利用の耕種的防除技術に興味を示し、使用するたい肥の種類や天敵温存植物の入手法など、多くの質問があった。 ○もち麦の栽培者から有機 JAS 認証についての支援を求める声があり、対応する予定。			
【天敵温存植物】 土着している天敵を、ほ場内に誘引し定着させるための植物。クレオメ、バーベナ等  たい肥の活用について講義  天敵昆虫タバコカスミカメ				

標 題	さくらひめ産地強化事業第 2 回検討会を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 2 月 27 日	場所	中予地方局 生産ほ場（松山市伊台）	
指導対象	さくらひめ生産者（4 人）	連携 機関	JA えひめ中央、農産園芸課、県農林 水産研究所	
普及指導 内容	○生産者や JA、東京、大阪、愛媛の市場関係者等が参集し、局予算事業「さくらひめ 産地強化事業」に係る第 2 回検討会を開催し、実証報告や意見交換等を実施した。 ○検討会では、今年度の取組実績として、冷蔵設備を利用した夏季自家育苗により、高 校卒業式需要に対応できたこと等について報告した。 ○現地では、品質や出荷時期について生産者と市場担当で意見交換を実施。生産者間 で栽培管理方法を共有し、品質向上による市場ニーズへの対応を検討した。			
結果と今後	○県内では、高校卒業式用として昨年と同程度の注文があり、県内で 320 本、うち中予 管内生産者から 280 本（全体の 87.5%）が出荷された。 ○引き続き、夏季の自家育苗技術実証や認知度向上、新規生産者の掘り起こしや面積拡 大に向けた取組み等を行い、需要期出荷と継続的な安定生産による生産者の収益向上 を図る。			
  左：今後の生産や販売について検討 右：現地において生産者と市場関係者が 意見交換				

標 題		第 4 回ニューファーマー講座の開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日		令和 7 年 2 月 7 日		場所	みかん学校、宇和島市吉田町
指導対象		新規就農者（13 人）		連携機関	JA えひめ南、宇和島市
普及指導内容		○新規就農者の専門的な農業知識や技術向上のため、就農 5 年以下の農業者を対象としたニューファーマー講座を開催した。 ○室内研修では、R7 年度産温州みかんの生産対策と縮間伐をテーマとし、縮間伐は実際に実施済み園地を見学するとともに、間伐を実演した。			
結果と今後		○縮間伐については、「自身の園地をドローンで撮影してみたい」「縮間伐案と一緒に考えてほしい」など、前向きな意見があったため、希望する農業者に対しては、実際に園地に行き個別に指導する。 ○また、次年度の講座内容に関するアンケートの結果、せん定と病虫害防除の要望が高かったため、これらの要望を盛り込んだ講座を計画する。			





左：座学の様子

右：園地実習の様子

標 題	女性農業者等研修で交流		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年2月27日	場所	宇和島市津島 山本いちごファーム	
指導対象	女性認定農業者等グループ、一次産業女子さくらひめメンバー、南予地域女性リーダー等（55人）	連携機関	宇和島市、松野町、鬼北町、	
普及指導内容	○女性の経営管理能力の向上や女性リーダーを育成するため、宇和島市の女性リーダー（認定農業者、農業委員、農業指導士、果樹同志会、一次産業女子さくらひめメンバー）及び鬼北・愛南を含む生活研究協議会役員等を対象に、さくらひめに新規に加入したメンバーが経営する農園で研修会を開催した。 ○研修会では、観光いちご農園の経営概要の他、夫婦の役割分担やカフェの開設等6次産業化の取組等について研修した後、いちごの収穫体験を行い、相互交流を深めた。			
結果と今後	○参加者からは、「多くの女性と意見交換ができ有意義であった」「新しい取組を勉強できてよかった」などの意見が聞かれた。 ○今後も関係機関と連携し、女性が活躍できる環境づくりと意識改革に取り組む。			
  左：講師に熱心に質問する参加者 右：研修に参加した女性農業者等				

標 題	ももの急性枯死症対策実証試験を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年12月11日～7年2月27日	場所	管内のもも園地	
指導対象	もも生産者、JA えひめ南鬼北支所、 松野町農林公社	連携 機関	JA えひめ南、松野町農林公社、松野 町	
普及指導 内容	○管内では、改植数年後に若木が急に枯死する急性枯死症が発生し問題となっている。 ○もも急性枯死症は農研機構によりもも胴枯細菌病が原因とされ、防除対策としては排水対策、土壌消毒等が考えられているが、手間がかかるため実施する生産者は少ない。 ○しかし、近年の研究により急性枯死症に耐性のある有望な台木（飛騨国府紅しだれ）が見つかり、当班内のもも園地で台木の実証試験を開始した。			
結果と今後	○もも急性枯死症は改植後2～7年で発症することが多く、実証結果がわかるのは数年先となるが、一部の生産者から「結果が出るまで待てない。うちの園地にも導入したい」との要望があり、現地試験も併せて実施することとなった。 ○今後は、慣行の台木（おはつもも台）と比較調査し、飛騨国府紅しだれ台木の有効性を確認し、もも産地の再興につなげたい。			
 左：秋季の急激な落葉と赤褐色樹液の漏出（典型症例） 中：飛騨国府紅しだれ台木の植付直後の様子（鬼北指導班内ほ場） 右：接木指導の様子（現地ほ場）				

標 題	花粉用キウイフルーツのせん定研修および互評会の開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年2月20日	場所	松野町内ほ場	
指導対象	キウイフルーツ花粉生産者（3人）	連携機関	果樹研究センター	
普及指導内容	○今年度のキウイフルーツ花粉生産量が想定より少なかったことを踏まえ、来年度の花 粉生産量増加に向け、せん定技術の向上を狙った研修会を開催した。 ○花粉生産を担う枝の充実に重点を置いたせん定要領を果樹研職員が指導した。 ○その後、各生産者のほ場を巡回し、せん定の評価や手直し等について、意見交換した。			
結果と今後	○生産者からは、「残すべき枝と処理方法がよくわかった」「分からないところを質問し ながらせん定できたので理解が深まった」等の声が聞かれた。 ○今後も、花粉生産量の増加を目指して、肥培管理や病虫害防除等を指導する。			
 写真：参加者によるせん定の評価				

標 題	南宇和高校農業科 2 年生を対象に研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室愛南農業指導班
年月日	令和 6 年 2 月 9 日、19 日	場所	宇和島市吉田町	
指導対象	愛媛県立南宇和高等学校（23 人）	連携機関	愛南町、JA えひめ南、みかん研究所	
普及指導内容	○農業を将来の職業選択肢の一つとして位置づけてもらうことを目的に、愛南町農業支援センターと協力し、南宇和高校生を対象に新規就農候補者研修会を開催した。 ○9 日は西日本豪雨被災園地における営農再開状況とかんきつ加工場を見学し、19 日は県みかん研究所において、県育成品種の誕生秘話などの説明を聞くとともに、栽培ほ場を視察した。			
結果と今後	○高校生には難しい内容もあったが、進路検討の参考になる情報もあり、真剣に話を聞く生徒が多かった。 ○引き続き、関係機関と連携して農業の魅力発信を行い、将来の就農やU ターンにつなげていきたい。			
  左：西日本豪雨被災園地の復旧状況 右：県みかん研究所				

標 題	水稲新品種「にじのきらめき」による愛南町水田農業の活性化		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和 7 年 2 月 21 日	場所	JA えひめ南 南宇和営農センター	
指導対象	「にじのきらめき」栽培予定者（35人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○JA えひめ南稲作部会南宇和支部では、今年から本格的に栽培が始まる「にじのきらめき」の栽培研修会を開催した。 ○これまでの実証結果から、「にじのきらめき」をブロッコリーの後作に栽培することで有利性が確認され、7年産は87人が53haで作付予定である。 ○研修では、「にじのきらめき」の品種特性や町内での実証結果のほか、ブロッコリー後作を前提とした栽培体系や愛南版栽培指針、栽培のポイントについて説明した。			
結果と今後	○参加者からは、栽植密度や水管理のポイントについて多くの質問があり、「にじのきらめき」への期待の高さが伺えた。 ○ブロッコリー栽培後の水稲栽培は、倒伏等の課題があったが、阻害要因の解消にともない、「県内一のブロッコリーの面積拡大も同時に狙うことが可能」と生産者及び関係者も期待を寄せている。 ○当班では、品質と収量向上、さらには生産拡大に向けた指導を展開する。			
 栽培のポイントについて研修する参加者				

標 題	八西地区青年農業者と川之石高校生との交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年2月20日	場所	県立川之石高等学校	
指導対象	川之石高校生（10人）	連携機関	八西地区青年農業者連絡協議会	
普及指導内容	○地域農業の担い手の発掘・育成を目的に、管内で活躍する青年農業者と川之石高校生が一堂に会し、互いの活動内容について意見交換し、理解を深めた。 ○八西地区青年農業者連絡協議会の年間の活動内容等を会長が説明し、副会長が三崎地区のプロジェクト活動を発表した。 ○その後、「川高みかんのブランド化」について高校生が発表し、意見交換を実施した。 ○さらに、当室より高校卒業から就農に至るまでの具体的な過程について説明し、最後に室長が講評した。			
結果と今後	○生徒からは「非農家出身へのアドバイス」「農家になろうと思ったきっかけ」「農業大学校で学べること」などの質問があり、青年農業者が丁寧に回答。西宇和産地の維持と発展に向け、活発な議論が交わされた。 ○高校教員からは、「青年農業者の活躍や普段の農業経営のお話が聞けて非常に良かった」との意見があった。 ○同高校生はひめカレ進学希望者が多く、本交流会は就農候補者の確保にも繋がっており、今後も継続実施する。			
  左：青年農業者と川之石高校生との意見交換 右：集合写真				

標 題	首都圏の小学生にかんきつ出前授業実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 2 月 13、14 日	場所	東京都小平市立小平第十二小学校 東京都小平市立小平第三小学校	
指導対象	小学生児童（240 人）	連携 機関	八西地区青年農業者連絡協議会	
普及指導 内容	○八西地区青年農業者連絡協議会が、西宇和地域のかんきつを PR することを目的に首都圏の小学校で実施する出前授業を支援した。 ○授業では、かんきつ栽培の DVD 上映、中晩柑の食べ比べ、質問コーナーを実施。伊予柑、不知火、はるみの食べ比べでは、児童は品種ごとの説明を受けながら、見た目や味の違いを確認。その味の違いに驚いていた。			
結果と 今後	○小学生からは「農家になったきっかけ」「農業のやりがい」などの質問があり、会員が分かりやすく回答した。 ○都市部の小学生に授業を行うことで、会員自らの生産意欲の向上や西宇和みかんの PR につながった。 ○今後も農業体験等を通じ、地域や農業の魅力を伝える食農教育を継続する。			
  左：かんきつ栽培の DVD 上映 右：中晩柑の食べ比べ				

標 題	農福連携の推進に向けて交流セミナーを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年2月19日	場所	大洲庁舎	
指導対象	八幡浜支局管内農業者、福祉事業者 (6人)	連携 機関	農地担い手対策室、八幡浜市	
普及指導 内容	○農福連携の推進を目指して、農業者と福祉事業者のさらなる意識醸成を目的に、農福連携交流セミナーを開催した。 ○「大洲地域福祉事務所みんと」の高橋事業部長が、農機具の安全な取扱い指導方法について事例を交えながら説明。その後のワークショップでは「農福連携をスムーズに実施するために」をテーマに、参加者がそれぞれの立場で取組みの現状や課題について意見交換を行った。			
結果と 今後	○参加者から「農福連携に関する農業者側の認知度の低さ」「リスク管理の難しさ」等の課題に対して、高橋氏からは個々の利用者に沿った適切な業務分担が必要であるとのアドバイスがあった。 ○農福連携の推進に向け、引き続き農業者と福祉事業所のマッチング支援や研修会を実施し理解促進を図っていく。			
  左：熱心に意見交換する参加者 右：高橋氏による講演				

標 題	地域の担い手の資質向上を目指して研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年2月10日	場所	にし川（大洲市田口）	
指導対象	認定農業者、青年農業者、新規就農者、関係機関等（56人）	連携機関	大洲市、内子町、JA 愛媛たいき 県立大洲農業高等学校	
普及指導内容	○組織間交流や農業知識の習得などを目的に大洲喜多地区認定農業者協議会・青年農業者連絡協議会が合同研修会を開催し、当班が運営を全面的に支援。 ○青年農業者や大洲農高生徒によるプロジェクト発表、認定農業者によるドローン防除の説明、局予算事業を活用した野菜実証報告等、地域で新たな農業経営の参考になる内容とし情報交換を行った。			
結果と今後	○青年農業者によるプロジェクト発表では、農業指導士等の審査により内子町の活動が最優秀賞に選定され、4月に開催される「若い農業経営者大会」で発表する。 ○年代や経験が異なる幅広い層で意見交換ができる機会となり、「様々な意見が聞けて良かった」と参加者からは好評であった。 ○当班は、関係機関と連携し継続的に研修会等を行い地域の担い手育成を支援する。			



青年農業者による発表



農高生による発表



局予算事業の報告

標 題	連年安定生産に向けたかんきつせん定講習会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年2月3日		場所	西予市三瓶町内園地
指導対象	かんきつ生産者（20人）		連携機関	西予市
普及指導内容	○近年の異常気象、カメムシ多発等により隔年結果が顕著になる現状をふまえ、温州みかん、「紅まどな」、「せとか」等について、せん定講習会を実施し、予備枝の確保や間引き主体のせん定等について説明した。 ○また、省力化等につながる樹形改善に向け、樹高の切下げや内向枝の除去について指導した。 ○次年度は着花過多が予想されるため、品種ごとのせん定のポイントについて意見交換しながら実演し、参加者全員でせん定状況を確認して対策の実施を申し合わせた。			
結果と今後	○参加者からは「隔年結果を抑制するためのせん定方法について、理解を深めることができた」との感想が聞かれた。 ○今後も摘果や適期防除等の適切な栽培管理を指導助言し、かんきつの連年安定生産を推進する。			
  左：せん定のポイントの説明 右：参加者で確認し合いながら実演				

標 題	国内最大級の食品展示会でフィンガーライムの販路拡大を支援		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和7年2月12日～13日	場所	幕張メッセ（千葉県）	
指導対象	フィンガーライム産地化推進協議会	連携機関	—	
普及指導内容	○フィンガーライムの販路拡大を進めるため、国内最大級の食品展示会であるスーパーマーケット・トレードショー2025での生産者の出展を支援した。 ○展示ブースでは、フィンガーライムの試食や同ライムを使ったクラフトビールの展示とともに、農薬を散布せずハウス栽培で周年供給が可能なことや調理例を紹介するなど、生産者とともにPRを実施した。			
結果と今後	○展示ブースには200名以上のバイヤー等の来場があり、「そのまま食べるのか」「どうやって使うのがよいのか」などの質問が相次ぎ、その中の数社とは取引に向けた具体的な商談が進んだ。 ○今後、生産量の増加が見込まれており、販路拡大が急務であることから、当室では継続的に支援していく。			
 フィンガーライムの展示ブース  大勢の人でにぎわう展示会				

標 題	「紅プリンセス」の栽培実態調査および栽培技術実証の結果を共有		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和 7 年 2 月 28 日		場所	県農林水産研究所果樹研究センター
指導対象	普及指導員等（32 人）		連携機関	各局支局地域農業育成室 産地戦略推進室 農林水産研究所果樹研究センター
普及指導内容	○当グループでは、普及機関と連携し、「紅プリンセス」の高品質安定生産技術の確立を目指し、県下 22 か所で栽培実態調査や栽培技術実証に取り組んでいる。 ○28 日、普及指導員等を対象とした果樹調査研究会を開催し、調査・実証の結果の共有や意見交換を行い普及指導員の栽培技術及び指導力の向上を図った。			
結果と今後	○会議では、当グループや普及機関から、生理障害が発生しやすい樹形や着果部位などの調査結果を報告し、それらの結果から考えられる原因や対策について活発な意見交換を行い、高品質安定生産に向けた知識や技術の共有が出来た。 ○また、センター内で栽培しているほ場を見学し、研究員から整枝・せん定のポイントなど栽培管理の説明を受け、知見を深めることが出来た。 ○今後も高品質安定生産を目指し、関係機関と連携のうへ「紅プリンセス」の産地拡大に取り組む。			



果樹調査研究会で結果を共有



整枝せん定技術の解説

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543